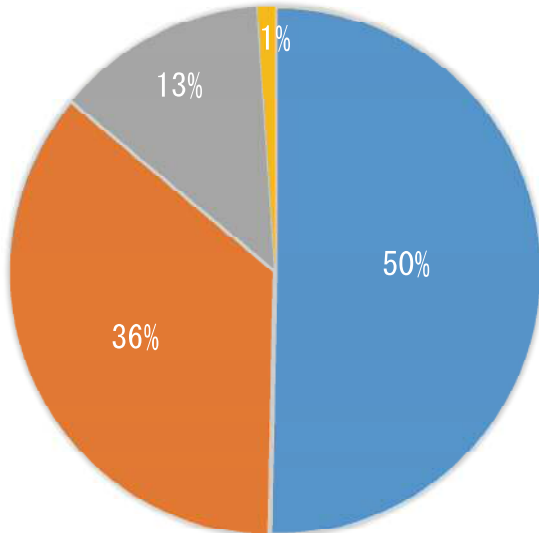


「コロナ禍での活動状況アンケート」結果について

(有効回答数 1,405 件、回答率 71%)

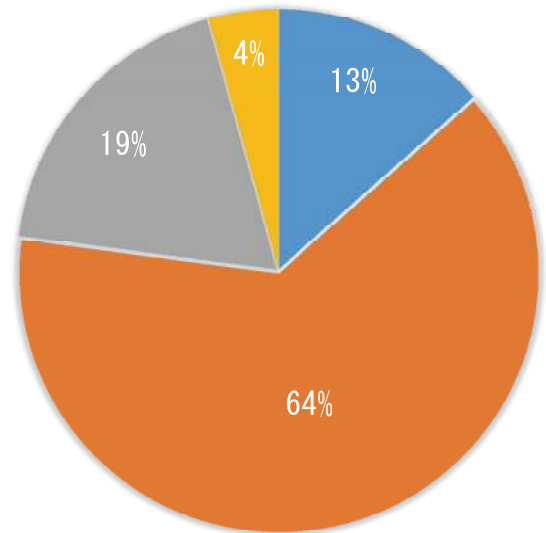
1. 活動の実施について

《例年と比較した活動実施回数の割合》



- 例年どおり
- 7割以上
- 3割～7割未満
- 3割未満

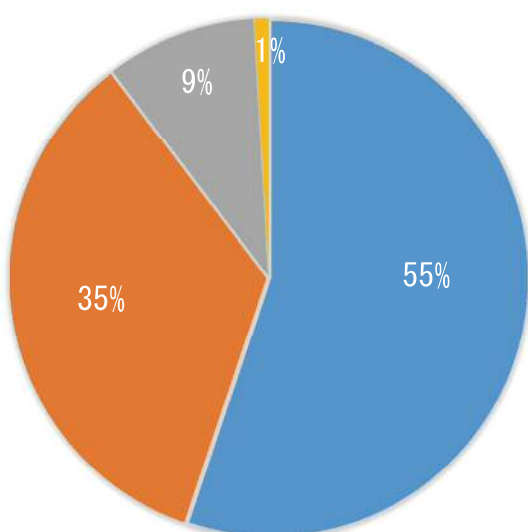
《最も減少した活動》



- 草刈りや泥上げなどの基礎的活動
- 総会や計画策定、話し合いなどの屋内で行う活動
- 地域住民や学校等と共同で行う環境保全活動
- 老朽化した施設の補修や更新を行う活動

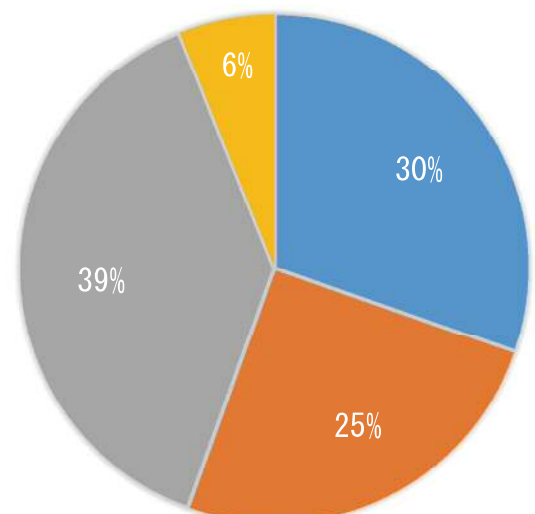
2. 参加人員について

《例年と比較した参加人員の割合》



- 例年どおり
- 7割以上
- 3割～7割未満
- 3割未満

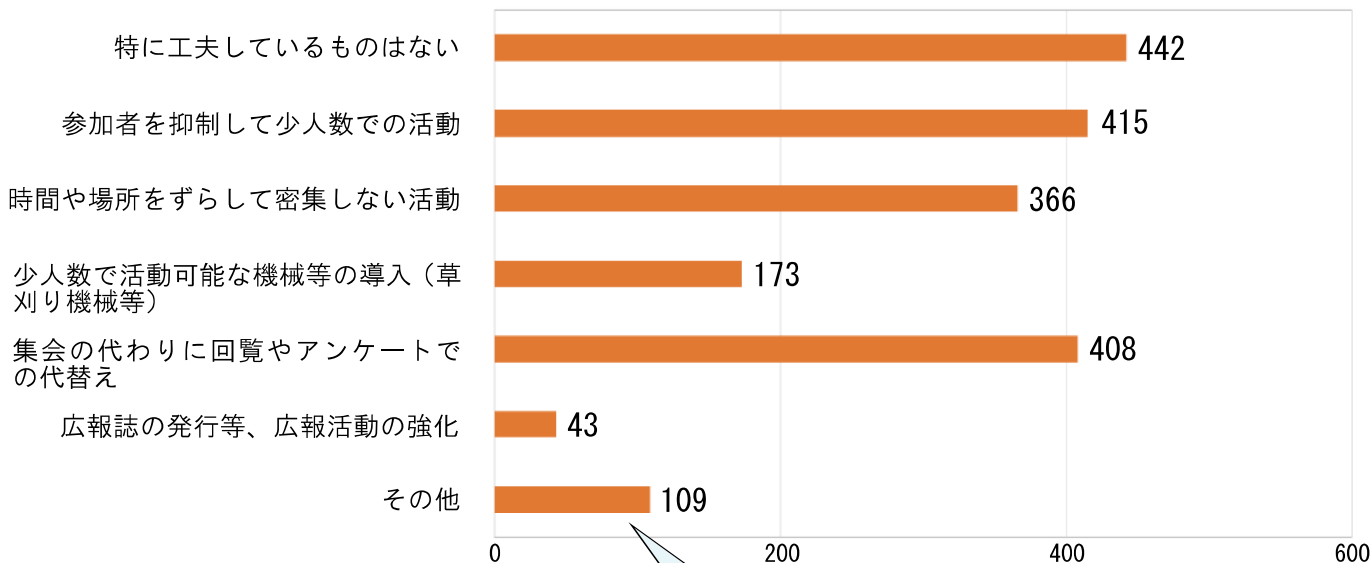
《最も影響を受けている参加主体》



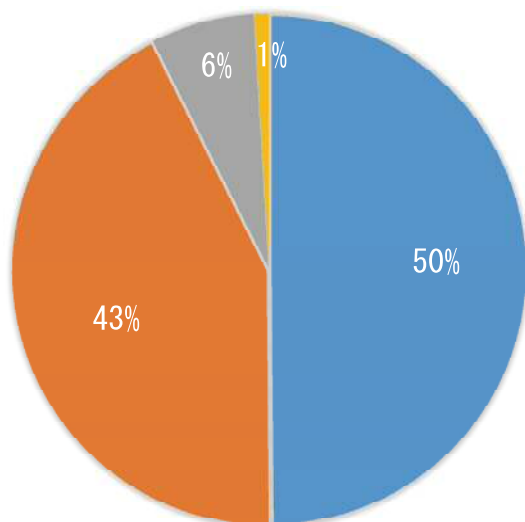
- 農業者
- 非農業者個人
- 集落の非農業者団体（自治会・老人会・子供会等）
- 学校や企業等の外部団体

3. 取り組むにあたって工夫していること

(複数回答可)



4. 交付金の使用見込みについて



その他：
「集会を屋外で開催」
「検温・消毒・マスク着用の実施」等



- 交付額の概ね全額を使用見込み（ほぼ持越なし）
- 交付額の3割未満を次年度へ持越（少し持越）
- 交付額の7割以下を持越（持越が多い）
- 交付額の概ね全額を次年度へ持越（持越がかなり多い）

今年度の活動実施回数は、例年どおり実施できている組織が半数、7割以上実施できている組織も合わせると、8割以上の組織が、コロナ禍にも関わらず普段と同じように活動しているようです。参加人員も、「例年どおり」と「7割以上」が大半を占めており、例年とあまり変化はないようです。

ただし、参加主体としては、農業者・非農業者個人・集落の非農業者団体について影響を受けており、その中でも特に自治会・老人会・子ども会といった非農業者団体の参加への影響が大きいようです。

また、活動を実施するうえで工夫していることは、参加者を抑制したり時間をずらしたりするなど密を避けて少人数で活動するほか、集会等を行う代わりに回覧やアンケートを実施している組織が多いことがわかりました。

そんな中、「特に工夫していることはない」と答えた組織も3割あり、屋外での多面的機能支払の活動においてはコロナ禍の影響はそれほど大きくないと推察されますが、一方で半分の組織が交付金の持越見込みとなっており、活動全体で見るとコロナ禍の影響があることが伺えます。